

平成 28 年度第 1 回舞鶴市子ども・若者支援会議 会議録（概要）

日時：平成 28 年 5 月 20 日（木）

午後 2 時～午後 4 時

場所：舞鶴市政記念館ホール

【出席者・欠席者】 別添、委員名簿のとおり

【事務局】 舞鶴市健康・子ども部、教育委員会教育振興部

【次 第】

1 開 会

2 挨拶 舞鶴市長 多々見 良三

3 委嘱状交付、各委員の紹介

4 議事

(1) 会議の設置・運営について

▽舞鶴市子ども・若者支援会議の設置の趣旨について（資料 1 に基づき説明）

▽会議の組織及び運営について（資料 1 - 1、1 - 2 に基づき説明）

▽会長及び副会長の選出について

委員からの推薦により、

会長：社会福祉法人舞鶴学園 理事長 桑原 教修 委員

会長の指名により、

副会長：舞鶴市民生児童委員連盟 副会長 山田 雅子 委員

上記のとおり承認

(2) 平成 28 年度子ども・子育て支援等の主要事業の概要について

（資料 2 及び『夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プラン』に基づき説明）

(3) 乳幼児教育ビジョンの概要について（冊子舞鶴市乳幼児教育ビジョンに基づき説明）

(4) 認定こども園化（舞鶴幼稚園と西乳児保育所）に向けた取組について

（資料 3 に基づき説明）

（協議事項）

(1) （仮称）子ども・若者健全育成部会の設置について（資料 4）

▼「青少年健全育成部会（案の名称を変更）」の設置を承認

▼下記事項を部会が専決できる特認事項として承認

1. 少年補導委員の選考委員会機能（委員候補者を市長に推薦する決定権）

2. 青少年善行表彰の被表彰者選考委員会機能（被表彰者を市長に推薦する決定権）

▼部会委員の選任、臨時委員の委嘱について（資料 4 - 1）

青少年健全育成部会（委員 8 名、臨時委員 6 名 計 14 名）に属する本会議の委員を下記のとおり承認

1. 舞鶴市自治連・区長連 行永委員 2. 舞鶴市小学校長会 堀委員

3. 舞鶴市中学校長会 堺谷委員 4. 東舞鶴高等学校 南部委員

5. 舞鶴市 P T A 連絡協議会 小由里委員 6. 舞鶴市社会福祉協議会 田中委員

7. 舞鶴市民生児童委員連盟 山田委員 8. 舞鶴子ども育成支援協会 池内委員

（以上 8 名）

加えて、臨時委員を下記の6機関に選任依頼し、部会委員として委嘱する。

1. 京都府中丹広域振興局
2. 京都家庭裁判所舞鶴支部
3. 舞鶴警察署
4. 舞鶴地区保護司会
5. 舞鶴市少年補導委員連絡協議会
6. 京都北都信用金庫東舞鶴中央支店（善行表彰基金の寄付者）

（以上6名）

▼青少年健全育成部会 部会長は、桑原会長の指名により、池内委員（舞鶴子ども育成支援協会）で決定

【意見交換】 各委員より、子ども・若者育成及び子育て支援施策に関する意見交換（桑原会長）

子どものそれぞれの育ちの場に関わっておられる各委員の皆様から、子どもや若者の育成支援・保護者への育成の視点を交えてのご意見をいただきたい。

（委員1）

- ・ひとり親家庭の子どもが、舞鶴で就職し住み続けられるよう、就職支援施策の充実を目指す。

（委員2）

- ・舞鶴市乳幼児教育ビジョン推進の取組に期待する。
- ・子どものより良い環境づくりには、職員の資質向上がスタートであり、賃金の面を含めて、保育士の確保、職員の職場改善が必要である。
- ・1人の保育士が担当する子どもの人数が少なくなることで、よりきめ細やかな保育ができる。
- ・現時点で、京都府下の認定こども園の設置数は、非常に少ない状況である。認定こども園化の取組について、保育園の中では、理解が進んでいるところばかりではないので、今後、この取組の説明の中で教えていただきたい。

（委員3）

- ・認定こども園の取組について、市が基本方針案を出すまでに幼稚園の様子も聞いていただきながら、私立幼稚園全12園に対して、どのように進めていくのか説明をお願いしたい。

（委員4）

- ・家庭科授業の一環で、高校生が子育て中のお母さんとその乳児と交流する機会を設けている。生徒が出産・子育てへの理解を深める点で良い取組であると考えている。
- ・保育士を目指す生徒は、毎年複数名いるが、進学が要求される。保育士に関しては奨学金制度がない。通信制等の利用も考えられるが費用がかかる、期間が長くなるなど課題もあり、奨学金制度の検討が必要である。

（委員5）

- ・自分の子どもがもう少し大きくなれば、ニートや引きこもり等の問題もあるが、色々な地域やサークルの活動で、様々な年齢の子を持つお母さんとの交流があるので、その方たちの意見をこの会議の中で情報提供していきたい。

（委員6）

- ・子育てが始まったとき、子どもの成長はこうじゃなきゃいけないと思ひ込み苦しんだ。

- ・人に頼ることもできず、子どもが大きくなっていった。このようなお母さんは、周りに多い。身近な友達に頼れない母親が、行政の支援に頼ることは、ハードルが高い。
- ・お母さん達が頼りやすい、助けてと言いやすい支援ができるように話し合えることができると感じている。
- ・働くお母さん達が増えてきている中で、このまま学年があがっても、放課後児童クラブに預けられるのか心配している。安心してお母さん達が働ける環境づくりを気にしている。

(委員 7)

- ・乳幼児とその親との関わりがあり、頼ってよ、という関係や私達を通して、地域とつながることなど、敷居の低い繋ぎ役をしている。
- ・昨年度、府教育委員会事業で、中高生に対して、次世代の親支援、親育成を実施した。
- ・活動の中で力を入れているのは、おんぶと抱っこのこと。
- ・抱っこ紐ひとつをとっても、子どものこれからの成長に影響が出てくるのではという声もある。筋力や身体の発達を阻害するような道具を使っているような状況があるので、お伝えすることができれば、草の根的なところがあるが、一つ一つが子どもの発達やお母さんの健康にも寄り添うようなアプローチを意識しながら実践していきたい。

(委員 8)

- ・ファミリーサポートセンターの利用で、一番多い理由は子どもの習い事の送迎である。
- ・母親にとっては、利用したいけれども金銭的に厳しいという話も多く、利用補助券があれば利用しやすくなるのではないかと。
- ・海上自衛官や海上保安官の方で、舞鶴で出産される母親も多い。しかし、入院中に上の子をどうしようかと悩まれる方もあり、市内にも「ショートステイ」を行う事業所はあるが、タイミングが合わないと利用できないこともある。このような施策の充実をのぞみたい。

(委員 9)

- ・放課後児童クラブは、利用する子どもの数が年々増加している中で感じるのは、共働きによって、お母さんが子どもさんと関われる時間が短いことが気になっている。子どもの事を考えると、家庭教育も非常に重要であり、学習面や生活習慣、礼儀作法等をお願いしたい。

(委員 10)

- ・高齢者の支援は非常に多くみられるが、子育てへの支援団体は少ないように感じる。
- ・子育て支援団体に対しての助成のPR、子どもの育成に関わる方への支援を考えたい。
- ・社会福祉協議会では、行政ではできない部分の地域のプラットフォームの役割を果たしていきたい。

(委員 11)

- ・最近の母親は、おんぶや抱っこが上手にできない、子どもを抱きしめることをしない親が多い。その親にそのような経験が無いのが原因なのではないかと思う。
- ・子どもと関わる時間が少ないと、親と子のスキンシップや話を聞いてもらう機会が少なくなる。今の母子関係は、次の母子関係にまで関係しているのでこのような連鎖を改善していきたい。

- ・舞鶴市における不登校や虐待に関する現状データについて知りたい。不登校や引きこもりが問題になっているが、家庭に問題があるだけでなく、その理由は多様化しており把握が難しい。私たちの世代よりも次の世代の子どもたちは生きづらさを感じているところを含めて考えていきたい。
- ・中高生が信頼できる第3者に相談できる場が少ないと思う。その第3者の一番のなり手は地域の方々だと思う。地域の力をつけていくところで、出産・子育てだけでなく青少年に対してどう対応していくのか、今後の取組みに期待している。

(委員12)

- ・虐待の背景は様々であるが、家庭の貧困や誰にも相談できない孤立した子育て、虐待の連鎖、家庭教育の弱さ等の様々な要因が関連して発生していると思う。
- ・虐待を未然防止するため、「こんにちは赤ちゃん事業」を市から担い、訪問時に繋がりができ、母親の悩み事の相談で少しでも不安を取り除くことができればと思う。各関係機関に繋ぐこともできるので、孤立しないよう、励ましながら実施していく。
- ・赤ちゃんから未就学の子を対象にふれあい広場を開催してママ友達を作ったり、地域の高齢者も参加いただき、繋がりを作って、地域ぐるみの子育てに繋げている。
- ・小学校から中学校になってくると、不登校や引きこもりの問題も出てくるので学校とも協力しながら対応していきたい。

(桑原会長)

- ・児童養護施設に在籍する子どもたちが、自己肯定感を持てるかの課題がある。
- ・虐待問題では、児童養護施設にいる70%は、それを受けてきた子どもたちであり、全国平均より高い数値である。その子どもたちがどこに行ってどのような暮らしをしているのか、どうやって成人に向かって歩いているのかということを、様々な分野の方が居られ、いろんな話を伺える会議の中でその情報をしっかりと共有していければと思う。
- ・子どもの貧困について、18歳までの子どもたちがどれぐらいの割合で貧困世帯にいるのか、また、その子どもたちの学力が保障されている環境になっているのか調べる必要がある。
- ・今日、「生きづらさ」を感じている子どもたちの現実というのは全国的に問題である。

【今後の予定】

第2回会議 平成28年7月11日(月) 午後1時30分～

舞鶴市役所本館4F 議員協議会室

文責：舞鶴市子ども・若者支援会議事務局